【第 6 回アフリカ開発会議サイドイベント】

アフリカの自立した産業振興：KAIZEN を越えて

国際協力機構（JICA）は 8 月 27 日、ケニア共和国ナイロビ市内の Sarova Panafric Hotel にてアフリカの自立した産業振興をテーマにしたサイドベントを開催しました。

本イベントでは、研究者、政府関係者、民間企業および援助機関という幅広いメンバーで構成される登壇者が、製造業の振興と経済構造改革に焦点をあてて、日本の品質管理と生産性向上のツールであるカイゼンの導入を通じたアフリカの産業開発について議論しました。アフリカで取り組まれているカイゼンは、資源の適切な配分、参加型による工夫・改良、労働者の意識改革、雇用者従業員関係の改善などを含んでいます。

討論では、まず英国の海外開発研究所のテ・ベルデ国際経済開発部長が産業の生産性向上につながる 3 つの要素、すなわち生産性の高い産業への資源の移動、競争による企業の入れ替わり、企業内での生産性向上の努力を説明したうえで、カイゼンは特に企業内の生産性向上に貢献していると指摘しました。続いてブルッキングス研究所のページ氏は、競争力のある企業を育てるには投資環境と産業戦略が重要であると強調しました。具体的には、①競争のある市場のなかで輸出指向型の産業を育成する、②企業間の相互学習を促進する産業の集積を促進する、③カイゼンや他の能力強化策を通じて生産性を向上することです。

エチオピア・カイゼン機構のゲタフン所長は、エチオピアではカイゼンの導入により企業の生産性が平均で 37 パーセント伸び、過去 5 年間で約 100 億円の利益をあげたことを報告しました。ガーナの貿易産業省のバエカ次官は、ハーブの会社において、労働者 1 人当たりの生産量が、カイゼンにより、1 時間あたり 0.3 箱から 1.2 箱に増えたことを説明しました。また、数値では測りづらいが、カイゼンには労働者の行動様式や意識を変える効果があると指摘しました。東アフリカ・ゼネラルモーターのキレンゲ製造品質管理総支配人は民間企業の視点から、カイゼンに取り組んできた経緯を紹介しました。

JICA の富吉理事は、カイゼンに関してアフリカで進んでいる二つの取り組みを紹介しました。一つはアフリカの各国がお互いに知見を共有し合うプラットフォームの設立で、もう一つは NEPAD (New Partnership for Africa's Development Agency)等の地域機関がカイゼンをアフリカにおいて主流化していく取り組みです。更に、他のドナーが行っている産業振興策とカイゼンの相乗効果を発揮するための協力も強化すると表明しました。

質疑応答では 、神戸大学の大塚教授が、カイゼンは産業振興策の導入において効果を発揮すると指摘し、またカイゼンは産業集積支援、外資誘致、技術訓練プログラムと組み合わせると有効であると付け加えました。

最後に閉会の辞を述べた NEPAD 計画調整庁のマヤキ長官は、カイゼン運動を評価すると表明したうえで、政府の高官による政治的な関与と、関係者の間での共通言語としての産業政策の存在が、カイゼンの普及に必要であると分析しました。また、アフリ

カ大陸において NEPAD が主導的な役割を果たし、カイゼンの先進国を形成することで近隣国にも普及していきたと総括しました。

■本イベントの登壇者
開会の辞
- 秋葉賢也（衆議院議員、日本・AU 友好議員連盟副幹事長）

主な登壇者
- ゲタフン・タデッセ（エチオピア国カイゼン機構所長）
- ダワルノバ・バエカ（ガーナ国貿易産業省次官 ）
- ジョン・ペイジ（ブルッキングス研究所上席研究員）
- ディルク・ウィレム・テ・ベルデ（海外開発研究所国際経済開発部長）
- 冨吉賢一（JICA 理事）

開会の辞
- イブラヒム・アサネ・マヤキ（NEPAD 計画調整庁長官）